

# SDGs 国家レビューに

## 当行の取り組みが掲載されました！

2025年6月10日に首相官邸で決定され、公表された「SDGsに関する自発的国家レビュー報告書」に、カーボンニュートラルに向けた当行の取り組みが掲載されました。

### ポイント📍

- ① SDGsの進捗を報告するため各国政府が自主的に作成する報告書です（略称：VNR）
- ② 日本は4年ぶり3度目の発行で、SDGs推進本部（本部長：石破総理大臣）が承認しています
- ③ コラムの中で当行が「うみのこ」にカーボンクレジットを寄贈したことが掲載されています
- ④ 当行は外務省が開催する会議への出席や、「地域金融」に関する原稿の作成にも協力しました

👉 次のようにコラムで掲載されています！（VNR報告書より掲載部分のみ抜粋）

コラム⑩：パートナーシップに基づく地域活動の国際展開～琵琶湖の「うみのこ」が途上国の環境教育モデルに～

環境先進県として知られる滋賀県には、県内の小学5年生が乗船する環境学習船「うみのこ」の愛称で呼ばれる独自の環境教育の取組が存在する（正式名称「びわ湖フローティングスクール」）。「琵琶湖の環境に主体的に関わる」ことを目的として1984年に始まり、2024年12月末までに滋賀県の人口の4割以上に相当する延べ約61万人が参加してきた。

「びわ湖フローティングスクール」では、1泊2日の航海に複数の学校が同時に乗船し、他校の児童と一緒に学び、集団生活を行う。琵琶湖の島の展望、寄港地でのウォークラリー、学校同士の交流会等のレクリエーションを行い、集団中での助け合いなどを学ぶ。また、環境学習としてプランクトンや魚・貝の観察、水の透視度調査、水の汚れの回復実験等を行う。学習内容は学校によって選択が可能で、環境問題への認識の変化とともに内容も変化している。

提供される全ての食事に滋賀県産の食材が取り入れられており、食育にも繋がっている。中でも県産豚のトンカツを使った「うみのこカレー」は乗船した誰もが記憶する思い出の味となっている。また、「うみのこ」は燃料にバイオディーゼル燃料(BDF)を10:1の割合で使用し、運航している。また、2025年1月には、滋賀銀行からびわ湖カーボンクレジット 30t-CO<sub>2</sub>の提供を受け、運航時に排出される温室効果ガスの一部をオフセットした。



「うみのこ」  
（写真：びわ湖フローティングスクール）

<sup>72</sup> BDF: Bio Diesel Fuel

<sup>73</sup> 参考 ここ滋賀HP <https://cocoshiga.jp/official/topic/uminoko/>

オフセット <https://uminoko.jp/topics/2025/3853/>

参考 [https://uminoko.jp/files/child/NicaraguaUMINOKO\\_C.pdf](https://uminoko.jp/files/child/NicaraguaUMINOKO_C.pdf)

👉 報告書の内容に関して議論する「SDGs推進円卓会議」のメンバーとして当行の役員が参加するとともに、「地域金融」に関する文章を寄稿しました。

報告書の全文は、以下のリンクからご確認ください（当行の取組は96ページに掲載）

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/20250610\\_vnr.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/20250610_vnr.pdf)